

令和7年度 第2回豊田市商業振興委員会

【日 時】 令和7年8月20日（水）午後2時から

【場 所】 豊田市役所南庁舎 南51会議室

【出席者】 <委員>

脇田 弘久	〔愛知学院大学商学部 教授〕
元岡 征志	〔シー・プロジェクト 代表中小企業診断士／社会福祉士〕
井口 貴視	〔豊田信用金庫 中小企業診断士〕
松本 義宏	〔名古屋学院大学経営学部 講師〕
新田 都子	〔高岡地域消費者グループ 代表〕
鈴木 千加	〔足助商工会 女性部 部長〕
杉山 裕貴	〔市民公募〕

（計7名）

<事務局>

脇迫 博文	〔豊田市産業部部長〕
川合 晃司	〔豊田市産業部産業振興課課長〕
吉野 奈美	〔豊田市産業部産業振興課副課長〕
稲垣 量平	〔豊田市産業部産業振興課担当長〕
谷口 元	〔豊田市産業部産業振興課担当長〕
下川原 沙紀	〔豊田市産業部産業振興課主査〕
江口 愛可吏	〔豊田市産業部産業振興課主査〕

【欠席者】 奥泉 友紀 〔豊田まちづくり株式会社 取締役執行役員〕
山内由美子 〔とよた下町おかみさん会 令和4年度会長〕

【傍聴者】 2名

【次第】

- 1 開会
- 2 産業部長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 本日の議事に関する説明及び連絡事項について
- 5 議事
(1) 豊田まちづくり（株）第Ⅶ期商業活性化推進3か年計画の取組状況について

- (2) 豊田まちづくり(株)第Ⅷ期商業活性化推進3か年計画(案)について
6 その他
令和7年度 商業振興委員会開催予定について

【問答要旨】

議 事

- (1) 豊田まちづくり(株)第Ⅶ期商業活性化推進3か年計画の取組状況について

委員長

議題(1)について、委員の皆様からご質問をいただきたい。

委員

質問① 令和7年4月に改正された商業振興条例第10条(商業活性化推進交付金)の改正理由が、「公共的空間等を一体的に捉えることで、関係者間の連携した取組を促し、エリアの価値・魅力向上を図る」ことが目的だと書かれているが、関係者は誰を想定しているか。

質問② 第Ⅶ期商業活性化推進3か年計画の事務局評価にある、行政による伴走支援は、具体的にどのように伴走するか。

事務局

質問①の回答

当該交付金事業が中心市街地において展開される支援のため、関係者とは主にはまちなかの事業者や事業者の関係者を指している。公共的空間という言葉を使っているため今後広場等の活用を想定しており広場の管理をする団体、実際に使われるプレイヤーの方々を含めて関係者と想定している。

質問②の回答

商業活性化推進交付金は、3か年計画の認定をした後、毎年見直しを行い申請していただいている。申請のタイミングと中間期の9月頃に計画の進捗状況を把握している。

計画の見直しについて行政としては、定性的、定量的な評価を行い、民間団体のアイデア、創意工夫による取組を後押ししたい。取り組み内容の伴走支援よりも、現状分析がしっかり評価できているか客観的な助言の伴走支援を想定している。

委員

伴走という言い方はいろいろな捉え方があり、行政職員も実行プロセスに関与出来るように現場に行かれるといい。最近は副業人材活用がキーワードになっており、行政職員も副業出来る時代になっている。地方によっては副業可能で地域のプロジェクトに関わっている事例もあるため、行政の業務の範囲に留まらない関与が出来たらより

伴走力が高まるのではないかと思う。

委員

令和 6 年度の「大型店の連携・共同事業」WEB アンケート調査の、閲覧数、回答数、回答者の属性及び成果を伺う。

事務局

WEB アンケートは、商業の現状を把握する目的で、主にまちなかの店舗等を利用される方、お住まい、使用する店舗及び頻度の調査である。属性と消費量の区分を分けて実態を把握する調査をした。調査自体が令和 7 年 2 月で年度末に結果が出ており、成果としては、現状を把握したというところ。今後情報をどう活用するかは大型店連携事業の中で協議を進めている。

豊田まちづくり(株)

WEB アンケートは、500 件の回答があった。そのうち 300 件は、T-FACE 等まちなかに来ている人が対象。駅前とイオンスタイル、メグリア本店は、回遊しているファミリー層が非常に多かった。お客様の獲得方法、店舗の選定はこれから行っていく。以前はまちなかの店舗を利用していたが利用しなくなった人が 500 件のうちの 100 件であった。前回 2018、2019 年頃調査を行っており、その後、ららぽーと、プライムツリーがオープンして日進方面の方々が利用しなくなったというデータが出た。500 件のうち 8 割くらいはネット販売の利用をしたことがあるという回答があり時代が変わってきている。

委員

「まちなかコミュニティ施設連携事業」は色合いが違うと思うが、入っているのはなぜか。

事務局

「まちなかコミュニティ施設連携事業」の目的としては 3 点ある。
チャレンジ起業する場、地域商店街・店主・来街者が交流できる場、子育てママや夫婦等が集いリフレッシュできる場である。
目的としては、商業の活性化に区分しているため 1 つの事業として取り組んでいる。

委員

「MAMATOCO」は中心市街地から少し離れた所にあり違和感があるが、子育て世代が車で来るような人達が対象の施設ということか。

豊田まちづくり(株)

「MAMATOCO」施設事業を開始した 10 年前は、ママと子供が自由に活動できる場所がないという問題と商店街の空き店舗の問題があり、空き店舗や古民家を活用してママと子が活動できる場所を作れないかというところから始まっている。現在は豊田市の交付金で運営しており、大型店だけではなくエリア全体を含めた活性化の視点が必要であり、豊田まちづくりがその役割を少しでも担っていく。

(2) 豊田まちづくり(株) 第Ⅷ期商業活性化推進 3 か年計画(案)について
豊田まちづくり(株)より説明

委員

豊田市は若者男性が多いが、まちなかに出てこない状況にある。その人達は何を求めているのか何があったらまちなかに出てくるのか、その需要の部分の追加調査を行ったうえで分析に取り組んでほしい。

豊田まちづくり(株)

若い独身男性は、趣味、旅行、食事等にはお金をかけているが、洋服にはお金をかけていない傾向がある。若者はグランパスの試合、スタジアムのイベントの際に中心市街地で消費行動をしており、AI データによると T—F A C E 8 階の飲食店を利用している。

委員

需要がどこにあるのか。例えばトヨタ自動車に直接アンケートをお願いすることはできないか。

委員

AI 活用による可能性は非常に期待しているが、AI 活用はあくまでも手段のため、これまでの継続事業ではない新たな取り組みを伺う。

候補予定の AI 以外にも AI ツールを活用して事業へフィードバックしていくということで捉えているのか。

期待成果がリーシング面と販促面と書かれているが、具体的な期待成果を仮説としては持っているのか。

費用対効果はどのように図るか。

豊田まちづくり(株)

継続事業について、変えていかなければいけないという意識はある。AI 分析を活用し、事業展開ができればと思う。今後の委員会で、もう少し具体的な事業計画をみなさんに発表させていただきたい。

豊田まちづくり(株)

分析データの打ち合わせ及びプレゼンは6社で実施した。

候補予定のA I分析は人流データが基になるため、例えば、豊田スタジアムに来ているお客様のうち、電車で来ている人の数やどこの駐車場に停めたかなど、どのような経路を辿ってスタジアムに向かっているのかが判明する。

そこに、アプリや検索履歴等から利用者の興味がある分野などを特定し、利用者の属性を分析していく。

また、グランパスのイベントに来るお客様に対する、店舗運営、サービス等の提供についてディスカッションをしていけないかと思っている。

A Iデータについては大型店連携事業だけでなく、横展開してフリーパーキング事業等に活かしていきたいと考えている。

費用対効果が示せるよう、A I分析の結果を活用した事業展開を具体的に検討していく。

委員

過去1年のデータで先行分析はできないか。候補予定のAIを先行して使用している他の市町村、まちづくりを成功している事例があれば教えてほしい。

豊田まちづくり(株)

広島で使用している。広島は、路面電車を中に引き込んで再々開発を行っており、電車から ترام、 ترامから商店街へ人流データを拾い、エリマネのような会議にかけられている。

1年前からデータを収集し、1年前のデータを持った状態でスタートできるようにしたいと考えている。

委員

人流データでは、利用者の心理的な側面は測定が出来ず、他の調査と組み合わせて心理面のデータと定性データと定量データの分析をすると思うが、調査回答をすることによって豊田市の中心市街地の活性化に繋がるということを何らかの形で啓蒙していく必要がある。

特に人間の購買行動はすごく複雑で思ってもいない行動をとるとというのが研究でも明らかになっている。サンプル数を多く回収して定量分析をすることがあるが、最近では特定の個人に対し心理面を深く掘り下げたインサイトの研究もされている。利用する方々の心理的な側面のデータを収集して人流行動データと組み合わせていくことができれば、事業の根拠となるデータが入手出来るのではないかと感じるので、今後の予定を伺う。

豊田まちづくり(株)

現時点で、インサイトの分析までは予定していない。コロナ禍を理由にアンケート調査を中止してしまったが、その時々で評価も変わるため、継続して実施する必要があった。定量データだけでなく、どのようなデータを収集し、活用するか、その視点を踏まえて取組を検討していきたい。

豊田まちづくり（株）

インサイトの部分はお指摘のとおりで、定性調査の方法に関しては、アンケートが一番いいと思っている。アンケートの対象や内容について、絞りこみをしてクロス集計をしていくというのが、定量から定性へ、定性から定量にというのが連携できればいい。

委員

AI で得られたデータのリーシング活用について、入居している店舗のコントロールは可能か。例えば、グランパスに特化して消費行動してもらう方がビジネスとしてはいいというデータが出た時にそれが可能なのか。

豊田まちづくり（株）

リーシングの観点で言うと、空き区画を埋めていくための AI の活用になる。空き店舗にどんなお店をいれるべきかの参考データを収集する。

グランパス一色にするためにグランパスグッズを売っているお店に店舗を入れ替えることは、契約の問題があるため現実的ではない。

例えば、商売の商機は試合開始前にあるということが、AI のデモデータとしてあるため、グランパスフェアは、各店舗の協力の基に充分できていると思っている。現状の店舗が出来る範囲で、売り上げがあがれば次に繋がるきっかけになるので、協力を呼びかけていくという方法が導き出せるのではないかと思う。

委員

空き店舗の対応ということもあったが、一つの空き店舗だけの話ではない。横の店舗との連携やフロアのコンセプトを考えられているという認識で良いか。例えば、グランパス、ラグビー等は「スポーツ」というテーマかもしれないが、今後いろいろ組み合わせさせて何が最適かということを考えていけるツールという理解でよろしいか。

豊田まちづくり（株）

お見込みのとおりである。

委員

毘森公園も含めて、まちなかの活性化に繋がることを期待している。

委員長

ここからは 5 分程度審議の時間とする。(豊田まちづくり(株) 退席)

委員

第Ⅷ期商業活性化推進事業 3 カ年計画の策定は今後どのように進められるのか。AI の可能性は期待しているが、単なるリーシングに留まらない定量的な数字の分析と定性面の心理分析について、今後、有識者が検討プロセスに関わる可能性はあるか。

事務局

商業振興委員会が検討プロセスの場と認識している。まずはいただいた意見を豊田まちづくりに共有する。内容の検討フェーズにおいては、市も話を聞く。今回いただいた意見に対しての回答を再度委員会で協議する流れになる。

豊田まちづくりに対しては、専門家等と意見交換をする場を設けてはどうかという提案をする。委員の方にも参加していただく可能性も検討する。策定の流れについては、進捗具合に応じて 10 月、2 月の商業振興委員会で改めて付議させていただく。

委員

事務局が行った、第Ⅶ期商業活性化推進 3 か年計画の取り組み事業の達成状況評価は C ばかりで A も本当に A なのか疑問に感じる。活きたお金になるように、委員会に上程される前の企画立案の段階の時に豊田市にしっかりコントロールしていただきたい。

事務局

企画段階で目標設定が適切かの判断について甘い部分があったことを反省している。目的課題に対して目標が適切であるか、目標に対して取り組みが適切であるかの確認は、付議する前の事務局の最低限の取り組みだと認識している。費用対効果のご発言もあったが、事前に評価していきたいと考えている。

委員長

本日の議事は終了した。